

農産 F A X 情報 第 7 号

令和 5 年 8 月 1 5 日

ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

1 秋まき小麦

○雑草対策

- ・レッドトップ等の多年生雑草が発生しているほ場が散見されました。耕起前の除草剤茎葉処理を検討しましょう。
- ・散布する際は、散布後に降雨がない日に行う。また、多年生イネ科雑草が 15 cm 以上に再生してから散布しましょう。

表 1 多年生雑草の除草剤例

薬剤名	使用方法・使用時期	10aあたり使用量	使用回数
タッチダウンiQ	耕起3日以上前 (雑草生育期)	通常散布 500~750ml	1
		少水量散布 500~750ml (水量25~50 L)	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前・雑草生育期	200~500ml	3

※周辺作物に飛散しないよう注意するとともに、ドリフト低減ノズルの使用が望ましい。

2 ばれいしょ

○疫病の防除

- ・疫病菌による塊茎腐敗は、茎葉の疫病菌が土壌中に侵入し感染。塊茎腐敗に対する防除を行う際は防除基準等を確認し、薬剤の選択に注意しましょう。

○軟腐病の防除

- ・気温が高く推移したため、本病が発生しているほ場が散見された。防除間隔が開かないよう注意しローテーション防除を実施しましょう。

○薬剤による茎葉処理の留意点

- ・茎葉枯凋剤の散布は晴れた日に行い、降雨が予想される場合は使用を避ける。
- ・接触剤のため、茎葉全体に付着させるように散布しましょう。

3 てんさい

○ヨトウガの防除

- ・例年8月下旬ごろからヨトウガの第二世代幼虫が発生し始めます。1回目より発生が多くなることもあるため、ほ場観察を行い発生に注意しましょう。

○褐斑病・葉腐病防除

- ・気温が高く推移したため、褐斑病、葉腐病ともに発生が確認されています。今後も高温・多湿条件が続くことが予想されるため、防除間隔10日以下を目安に防除を実施しましょう。

4 豆類

○菌核病、灰色かび病の防除

- ・着莢期に入り、多湿条件が続いており、菌核病・灰色かび病の発生が懸念されます。引き続き、耐性菌の発生を防ぐため、ローテーション防除に努めましょう。

○さび病の防除

- ・本病は多湿土壌で胞子が発芽しやすくなります。降雨により発生しやすいため、発生を確認しだい防除を実施しましょう。

○アズキノメイガの防除

- ・8月上旬にアズキノメイガの発生を確認しました。ほ場観察を行い発生に注意しましょう。

◎農薬・枯凋剤のドリフトに注意！

◎適度な休憩と塩分・水分補給で熱中症対策！！

◎農薬を適正に使用し、作業履歴は忘れず記帳！！！！